シンポジウム | シンポジウム

2026年10月23日(金) 14:40 ~ 16:00 | 第1会場（ライトキューブ宇都宮　1F　大ホール）

シンポジウムVI

「社会保障を支える、これからの老健」

座長：鈴木 康裕（国際医療福祉大学　学長）

[SY6-3] 社会保障を支える、これからの老健

堀 裕行 (厚生労働省　老健局　老人保健課長)



【略　歴】

筑波大学医学専門学群卒業
環境省環境保健部、厚生労働省保険局医療課、医政局総務課、老健局老人保健課、
岐阜県健康福祉部長、感染症対策部予防接種課長等を経て、令和6年8月より現職

2000年の介護保険制度の導入以降、人口の高齢化に伴い、要介護認定を受け、介護保険サービスを利用される方の数は一貫して増加してきた。昨年、団塊の世代が全て75歳以上となり、今後2040年に向け、医療・介護の双方のニーズが高くなる85歳以上高齢者のさらなる増加が見込まれる。
一方、今後働き手の中心となる15～64歳人口が大きく減少することに加え、現時点で既に人口が減少に転じている中山間地等の自治体と、今後も高齢者数が急増する大都市部の自治体では、2040年に向け、介護ニーズの変化やそのピークに大きな地域差が生じることが想定される。
こうした状況を踏まえ、在宅復帰、在宅療養を支援する老健が今後地域で期待される役割について触れるとともに、介護分野の賃上げ、経営の安定、離職防止、人材確保を図るために求められる対応について概説する。

©2026 公益社団法人 全国老人保健施設協会